

前回会合後の質問事項等

2008年9月9日

1. 設備コストの算定 –NGNの設備コスト

(1)09年度接続料

①NGNの設備コストを算定するためには、まずはNGNの設備量を設定する必要がある。

1) 当該設備量は、どのような方法で予測するつもりか。

2) 当該設備量は、少なくともサービスごとの需要予測をベースとする必要があると思うが、例えば、地域IP網の接続料を初めて設定したときのように、サービスごとの利用意向調査を行う予定などはあるのか。

3) また、当該設備量の設定のためには、サービスごとの通信量等(帯域)を設定する必要があると思うが、どう考えるか。地域IP網の接続料設定のときのように、設備ごとに設置基準を設けることが必要と考えるが、どうか。

(それとも、09年度までの需要は、サービスごとの通信量等(帯域)を設定する必要があるいほど、少ないレベルと考えるのか(例えば、収容局ごとには、収容ルーター一台で収容可能なレベルのユーザしか加入しないと考えるなど。)

4) その他、設備量を設定するために必要な要素(呼の集中率等)があるか。

②NGNの設備量から、NGNの設備コストをどのように算定する考えか。網改造料の算定方式に準拠するのか。

③NGNの投資額は、NTT東西合計で07年度は280億円、08年度は1150億円ということだが、これに基づき、08年度におけるNGNの設備ごとの予測コストをNTT東西ごとに算定してもらいたい。

④上記③の投資額に加えて、これまで示されている以下の事項などをベースとして、09年度におけるNGNの設備ごとの予測コストをNTT東西ごとに算定してもらいたい。

1) 08年度以降の加入光ファイバ接続料の算定は、Bフレッツ契約者について、09年度末時点で、NTT東日本で940万契約、NTT西日本で約720万契約の前提で行っており、2010年度末時点では、Bフレッツの約半数をNGNで収容する予定

2) 新中期経営戦略(今年5月公表)では、2010年度に、NTTグループの連結売上高の約36%をIP系で占める目標を設定

資料1
P3

設備量
算定の
考え方

資料1
P3

設備量から
設備コスト
への
換算方法

資料1
P2・3

設備コスト
の見積もり

(2)2010年度以降の接続料

①2010年度以降の接続料算定の際には、NGNの設備コストは、(接続料の算定方式は別として)電気通信事業会計・接続会計で整理される費用に基づき算定するという理解でよい。

資料1
P2

設備コスト
の算定の
考え方

1. 設備コストの算定　－ひかり電話網の設備コスト

(1)09年度接続料

- ①07年度の電気通信事業会計・接続会計及び通信量等(07年度が困難であれば、06年度)に基づき、ひかり電話網のコストを算定すると、どのぐらいの額になるのか。
- ②上記①のコストに基づき、ひかり電話網の接続料を算定すると、どのぐらいの額になるのか。
- ③上記①をベースとして、09年度におけるひかり電話網のコストを算定すると、どのぐらいの額になるのか。

資料1
P2

設備コスト・
接続料の見
積もり

(2)2010年度以降の接続料

- ① 2010年度以降の接続料算定に際し、ひかり電話網のコストは、(接続料の算定方式は別として)電気通信事業会計・接続会計で整理される費用に基づき算定するという理解でよい。

資料1
P2

設備コスト
の算定の
考え方

2. サービス別コストの算定

(1) サービス間の量的差異の問題

- ①効用・便益的要素の加味を検討する上でも、まずは通信量等に基づき、設備コストをサービス別に配賦した結果を検証する必要がある。そこで、現時点では、費用配賦に適当な通信量等を一意に絞ることはできないが、試行的に、各サービスごとに設計帯域を設定して、それに各サービスごとの予測利用者数などを乗じることによりドライバを作ると、各サービスごとの比率はどのようなものになるのか。
- ②また、①のドライバ(比率)に基づき、1.【NGNの設備コスト】(1)4で設定した09年度の設備別コストをサービス別に配賦すると、サービス別のコストはどのようなものになるか。
- ③音声サービスと映像サービスの間で帯域比で費用配賦する場合、映像サービスに費用が多く配賦される問題が生じるが、映像サービス間であれば、そのような問題は基本的に生じないと考えてよい。換言すれば、ひかり電話サービスとの間で費用配賦が生じない設備コストは、通信量等(設計帯域等)で費用配賦しても、基本的に問題が生じないと考えられるか。
- ④映像サービスに費用が過度に配賦されることによって、具体的にどのアンバンドル機能の接続料が市場に受け入れられない料金となることが懸念されるのか。
- ⑤アンバンドル機能に帰属しないコスト(フレッツ・キャスト(QoS)等のコスト)については、利用部門のみが負担することになるが、当該コストを利用部門が、ユーザから回収しようが、コンテンツ配信事業者から回収しようが、基本的に自由と考えているという理解でよい。
- ⑥現時点でも、フレッツキャスト等のコンテンツ配信向けサービスについては、利用部門は、コンテンツ事業者に対しても料金徴収をしている(ユーザへの料金徴収は、QoS付のサービスのみ)。
 - 1)これは、利用部門が、自ら負担する設備コストをコンテンツ事業者からも回収していると考えてよい。
 - 2)また、コンテンツ事業者に対する料金設定は、映像配信サービスに過度に費用が配賦されることになる場合には、妥当しなくなる水準と考えられるか。どのぐらいの費用が映像配信サービスに配賦されると、現在のユーザ料金又はコンテンツ事業者向け料金が維持できなくなるのかの検証が必要ではないか。

資料1
P5設計帯域等
によるサー
ビス別比率
・
サービス別
コストの見
積もり資料1
P4量的差異
が問題とな
らない設備資料1
P12-10費用の
回収方法等

(2) サービス間の質的差異の問題

- ①サービス間の質的差異をコスト配賦に反映することについてどう考えるか。SIPサーバでトラフィックを制御するために設定している情報を用いることはどうか。例えば、クラスごとのトークンバケットの設定容量、最低保障帯域(コーデック種別等に応じて確保要求する帯域)、セッションの最大同時接続数などによって、QoS確保のレベルに応じて比率を設定すると、どのような割合になるのか。
- ②例えば、電話の場合は、実際にはどれぐらいの帯域を確保しているのか。1ビット流すために、実際には10ビットぐらい確保しているなどのデータが分からないか。

資料1
P5-6質的差異の
考え方

3. 機能別コストの算定等

(1) 機能別コストの算定・需要の設定

- ① ひかり電話(標準音質)のコストをIGS接続と中継局接続に分計するに際しては、IGS経由の音声トラフィックとGWルータ経由の音声トラフィックの通話時間をドライバとするのか。
- ② 収容局接続について、現時点で想定している需要の単位を教えてください。従来の地域IP網の接続料と同様に、ポート数を単位とするのか。この際、「フレッツ光ネクスト(BE)」、「フレッツ・キャスト(BE)」、「フレッツVPN(BE)」をまとめて必要なポート数を予測するのか。
- ③ IGS接続について、現時点で想定している需要の単位を教えてください。従来の固定電話やひかり電話網の接続料と同様に、秒単位とするのか。それとも通信回数+秒などもあるか。
- ④ 中継局接続について、現時点で想定している需要の単位を教えてください。現時点で、音声通話のみを想定すると、③と同様の単位とするのか。
- ⑤ イーサ接続について、現時点で想定している需要の単位を教えてください。従来のメガデータネットと同様に、通信速度単位とするのか。

資料1
P7

IGSと中継局接続への分計方法

資料1
P1

需要設定の考え方

(2) 接続料の算定等

- ① サービスごと(フレッツ光、ひかり電話等)に、容量、予想トラフィック、利用者料金水準、類似既存サービスの利用量・料金水準、今後5年間の利用動向など、多様な観点からそれらの相違点を数値で一覧比較できるようなものを作成していただきたい。
- ② アンバンドル機能ごとの接続料について、幅があっても構わないので、試算データを示していただきたい。